

「主体的・対話的で深い学び」 の手引き



飛驒教育事務所

平成30年9月

《 目 次 》

はじめに	1
「終末からの授業改善」を踏まえた 「主体的・対話的で深い学び」について	2
○ 小学校及び義務教育学校（前期課程）	
【国語科】	4
【社会科】	5
【算数科】	6
【理科科】	7
【生活科】	8
【音楽科】	9
【図画工作科】	10
【家庭科】	11
【体育科】	12
【外国語科】	13
○ 中学校及び義務教育学校（後期課程）	
【国語科】	14
【社会科】	15
【数学科】	16
【理科科】	17
【音楽科】	18
【美術科】	19
【保健体育科】	20
【技術・家庭科】	21
【外国語科】	22
○ 特別支援教育【生活単元学習】	23
あとがき	24

はじめに

飛騨教育事務所長 中村 好一

飛騨管内では、平成22年から「終末からの授業改善」を推進し、近年の全国学力学習状況調査においては、一定の成果を上げてきているものととらえています。

これも、飛騨地区の先生方一人一人が、高い授業改善の意識をもち、「授業の終末において、具体的にどのような振り返りの発言やノートまとめが出来ればよいのか。」「どのような確かめや発展の問題が解けるようになればよいのか。」を問い続け、基礎的な知識や技能の習得とともに、生活に生きて働くにまで結ぶことを大切にしながら具体的な姿をイメージし、その姿を具現するための指導過程を見つめ直す取り組みの成果であると思っています。

今回、平成29年3月31日に学校教育法施行規則の一部改正と学習指導要領の改訂を行い、小学校では平成32年度から、中学校では平成33年度から全面的に実施されることとなりました。

今回の学習指導要領改訂においては、これまでの確かな学力の育成を踏まえ、『育成を目指す資質・能力の三つの柱』『主体的・対話的で深い学び』『カリキュラム・マネジメントの推進』等が改訂の基本方針として示されています。

特に、子どもと向き合い、授業を行う先生方にとっては、『主体的・対話的で深い学び』は、大変重要な基本方針の要点と考えています。

しかし、『主体的な学び』『対話的な学び』『深い学び』については、これまでも取り組んできたことであり、今回の新学習指導要領では、より一層強調され、取り上げられたことです。

そこで、飛騨教育事務所では、働き方改革という意味も含め、各先生方が授業を見直す視点や、さらなる工夫改善を進める方向性について、その一助となる資料を作成しました。

なお、小中学校別の各教科資料は、授業の『工夫改善のポイント』で示させていただきます。

ぜひ、本資料を積極的にご活用いただき、子どもたちがより質の高い学びを身に付け、学ぶことが好きで、学び続ける子になることを願っています。

終末からの授業改善

踏まえ

主体的・対話的で深い学び

強調

導入

課題化

展開

一人学び
(個人追究)

仲間学び
(集団追究)

終末
(まとめ)
(評価)

児童生徒の内面の主体

主体的
(自立的)

・どうして?
・なんでだろう?
・やってみたい!
・おもしろそうだ!

・思いついた!
・できそうだ!
・分かってきた!

・できた!
・分かった!
・もっとやってみたい!
・次は〇〇について..

- ◆興味・関心・意欲
- ◆主体的に学びに向かう力

対話的

型にとわらない

- ◆深い学びに向かって必然のある対話
(ペア・トリオ・グループ・全体)
- ◆対話の中に外的刺激を付加
(深め発問・切り返し発問・次なる課題)
- ◆自己内対話(教科書・教材 等)

深い学び

(見方・考え方を働かせ)

授業の質的高まり

『主体的・対話的で深い学び』とは・・・

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

【対話的な学び】

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする。

～ 6 つの留意点 ～

- (1) これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないということではない。
- (2) 授業の方法や技術の改善のみを意図するものでない。
- (3) 各教科等において通常行われている学習活動の質を向上させることを主眼とする。
- (4) 1回1回の授業で全ての学びが実現されるものでない。
- (5) 深い学びの鍵として、『見方・考え方』を働かせることが重要である。
- (6) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その確実な習得をはかることを重視する。

学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編より

小学校【国語科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 国語科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・ 児童が見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び
 「対話的な学び」・・・ 児童同士や教師、地域の人や本の作者などとの対話が図られるような言語活動を行い自己の考え方を広げ深める学び
 「深い学び」・・・ 国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、自分の思いや考えを形成し深める学び

言葉による見方・考え方

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	・前時までに学習したことを確認したり単元を貫く課題を確認したりする。 本時の課題を確認する。	【主体的な学び】 ・自ら本時の学びに興味や関心をもたせ、見通しを立てさせる。 ・児童自身が知識や技能を振り返ることで、身に付けなければならないものをつかませる。 ・「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」 サンプル検討やモデル検討から「見方・考え方とのずれ」を生み出し、自分の課題や学習状況を判断させる。 ・「C読むこと」 心情描写や構成・展開を読むための視点を示すことで、課題解決のための見通しをつかませる。
深める	- 一人学び ・課題を追う。 全体交流等 ・友達と交流し、言葉による見方・考え方を深め、広げていく。 ・教師による深めの発問や仲間からの新たな視点の提示で追究する。	【主体的な学び】 ・児童自ら課題解決に向けて、新たな考え方や方法を生み出させていく。 ・児童自ら試行錯誤しながらよりよい表現を見つけたり、分析・評価し論述したりさせる。 【対話的な学び】 ・必要に応じてペアやグループ、一斉、スクランブルといった様々な形態で追究することで、仲間の学びのよさや新しい考えが発見できるようにする。 ・黒板やホワイトボードを使って児童が説明したり付箋等を使用したりして、考えを広げたり深めたりする場を設定する。 ・言葉で表現する際の正誤・適否・美醜といった言語感覚を養うために、相手や目的、場面や状況について判断できるように話し合いをさせる。 【深い学び】 ・教師の働きかけ（深めの発問）や仲間からの新しい視点の投入によってゆさぶり、今までにない考えを形成する。 ・何度も練習したり問題を解いたりして使えるようにすることで、知識・技能を定着させる。 ・言葉の働きを捉えために役割演技や動作化などをさせ、言葉への自覚を高める。
まとめる	・本時の中でできたこと、分かったことや自己の変容を振り返る。 ・次時の見通しをもつ。	児童が自分自身で自己の変容を実感するとともに、活動内容だけにとどまらず、誰のどんな言葉で深まったのかという視点でも振り返らせる。 【深い学び】 ・「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」 提示した観点で追究できたかを確認し、比較できるものがあれば比較することで自己の変容を自覚させる。 ・「C読むこと」 課題に即して読み深まったか、初めの読みと仲間と追究した後の読みとの変容はあるかを確認する。 【主体的な学び】 ・次時への追究意欲や、本時学んだことを振り返り、自身の学びを自覚できる場面を設定する。

小学校【社会科】 「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 社会科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

主体的な学び

- ・学習対象に対する関心を高め問題意識をもつようにするとともに、予想したり学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討すること。
- ・学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見いだしたりすること。
- ・学んだことを基に生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすること。

対話的な学び

- ・学習過程を通じた様々な場面で児童相互の話し合いや討論などの活動を一層充実させること。
- ・実社会で働く人々から話を聞く活動を今後一層の充実させること。
- ・対話的な学びを実現することにより、個々の児童が多様な視点を身に付け、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるようにすること。

深い学び

- ・児童の実態や教材の特性を考慮して学習過程を工夫し、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、主として用語・語句などを含めた具体的な事実に関する知識を習得することにとどまらず、それらを踏まえて社会的事象の特色や意味など社会の中で使うことのできる応用性や汎用性のある概念などに関する知識を獲得するよう、問題解決的な学習を展開すること。
- ・学んだことを生活や社会に向けて活用する場面では、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断することなどの活動を重視すること。

社会的事象の見方・考え方… 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	・提示された社会的事象（資料）から気付いたことや分かったことを話す。 ・教師と児童が学習する内容を共有する。	児童が社会的事象の見方・考え方を働かせて、社会的事象の事実に向け、矛盾点や追究したい視点を明らかにする。 主体的な学び ・児童が社会的事象と出会い、驚きや疑問を感じるように工夫する。 ・学習課題の設定につながる具体的な事実から疑問が生まれる社会的事象（資料）を考える。 ・必然のある学習課題になっているかどうかを見直す。 対話的な学び ・指導計画の内容を吟味しながら、教師の意図と児童の認識のズレをなくすために、一人一人の児童が学習課題にかかわる事実や調べる内容を確実にもち、児童が互いに共有できる働きかけを行う。
深める	・解決の見通しをもつ。 ・学習課題をするための資料をもとに追究する。 ・仲間の考えと比較・分類したり、総合したり関連付けたりしながら自分の考えを広げ深める。	児童が学習課題を解決するために、解決の見通しをもって、調べたり、交流したりして自分の考えを広げ深める。 主体的な学び ・資料をもとに学習課題を追究するための視点を児童と共有し、学習課題を解決するための見通しをもたせる。 ・写真やグラフ、地図、年表、図表、数字等事実を関連付けて考えられるよう資料を工夫する。 対話的な学び ・児童の思考が全体交流、小集団交流等において、どのように推移していくのかを見極め、必然のある交流を考える。 ・授業者が児童の発言内容の根拠や立場を明確にしたり、差異やつながりを的確に聞き分けたり、児童の思考を焦点化させたりする発問を行う。 ・児童の考えを広げ深めるために、話し合いの内容を問い返したり、ねらいに基づく問い返しを行ったりする。 深い学び ・社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるよう問い返しを行い概念形成を図る。
まとめる	・学習した内容について振り返る。 ・自己の変容を確かめる。	児童が学習した内容を振り返り、自分の考えの変容を自覚する。 深い学び 主体的な学び ・学習した内容（概念形成を図ったこと、自分との関わりや変容、仲間との関わり、さらに考えてみたいことなど）を振り返って、考えたりまとめたりすることができるよう板書にキーワードを位置付ける。

小学校【算数科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 算数科における「主体的・対話的で深い学び」の捉え

- ・「主体的な学び」…問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする学び。
- ・「対話的な学び」…数学的な表現を柔軟に用いて表現し、それを用いて筋道を立てて説明し合うことで新しい考えを理解したり、それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合うことでよりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにしたりするなど、自分の考えや集団の考えを広げ深める学び。
- ・「深い学び」…日常の事象や数学の事象について、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、意味の理解を深めたり、概念を形成したりするなど、新たな知識・技能を見いだしたり、それらと既習の知識と統合したりして思考や態度が変容する学び。

「数学科の見方・考え方」…事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。

→「数学的な見方・考え方」は、数学的に考える資質・能力を支え、方向付けるものであり、算数の学習が創造的に行われるために欠かせないものである。

*「数学的な見方」は、事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること。

*「数学的な考え方」は、目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、根拠を基に筋道を立てて考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能を関連付けながら、統合的・発展的に考えること。

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

	めざす児童の姿	教師の指導（または視点）	指導の具体（または視点）
主体的な学び	数学の系統性を大切にする中で、自ら進んで追究する学びになっているか ・見通しをもち ・粘り強く取り組む ・よりよく解決する ・解決過程を振り返る ・新たな問いを見いだす	・既習と比較できる問題提示 ・観察、操作、実験を通して ・個人追究、共同追究での指導（自己決定、どの子も伸ばす視点） ・まとめ（統合、発展の視点） ・評価問題（練習、発展問題） ・振り返り	・「前と比べて…」「分かること、求めること」 ・「手の動きと合わせて…」「操作しながら…」 ・「教科書を頼りに…」「力を伸ばすために…」 ・「〇〇が目的だから～の方法ですね」 ・「ペア・グループ・全体」（目的に応じた集団で対話を図る） ・「できるようになったこと」「さらに…」を語る ・「練習、発展問題に取り組む」…など
対話的な学び	仲間と考えを比べることで、自らの思考を広め、深める場になっているか ・数学的な表現を柔軟に用いて表現する ・筋道を立てて説明する ・よりよい考えに高めたり、本質を明らかにしたりする	・算数ならではの表現 ・根拠を基に表現し、伝える（簡潔、明瞭、的確） ・個人追究、共同追究で深まりを生みだすことを通して（発問、問い返し）	・「式、図、数直線図、表、グラフ」等を使って説明する ・結論を述べる。根拠となることがらを理由として述べる ・根拠を基に、「統合的、発展的」の視点から発問として投げかけたり、学び合いを組織したりすることで本時のねらいに迫る（本時、気付かせたいことに向かって）
深い学び	見いだした知識・技能を統合し、思考や態度が変容する学びになっているか ・よりよい方法を見いだす ・意味の理解を深める ・概念を形成する ・新たな知識・技能を見だし、既習と統合する	・統合的、発展的な視点で、気付きを生みだす ・実感を伴った理解へつなぐ ・自分の追究を振り返ったり、発展的に考えたりする中で、理解を深める * 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して…	・「理由は…」「順番に言おうと…」 ・「共通していることは…」（「違いは…」） ・「いつも成り立つ…」「いつでも言えますか」 ・「条件を変えるとどうなりますか？」…など ・それらを使って考えたり、説明したりする活動を通して ・1時間や単元を通しての変容、「はじめは～だったけど、今は…」 ・「これまでの学習をまとめると…」

小学校【理科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛驒教育事務所

1 理科における「主体的・対話的で深い学び」のとらえ

- 「主体的な学び」・・・例えば、自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行っているか、観察、実験の結果を基に考察を行い、より妥当な考えをつくりだしているか、自らの学習活動を振り返って意味付けたり、得られた知識や技能を基に、次の問題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を捉えようとしたりしているか。
- 「対話的な学び」・・・例えば、問題の設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察の場面などでは、あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり、根拠を基にして議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする学習となっているか。
- 「深い学び」・・・例えば、「理科の見方・考え方」を働かせながら問題解決の過程を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになっているか、様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか、さらに、新たに獲得した資質・能力に基づいた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせているか。

(出典：小学校学習指導要領解説 理科編 95頁)

理科の見方・考え方・・・

- 「見方」：自然の事物・現象をとらえる視点 例) 量的・関係の、質的・実体的、共通性・多様性、時間的・空間的 等
- 「考え方」：問題解決するときの思考の仕方 例) 比較、関係付け、条件制御、多面的に考える 等

2 「主体的・対話的で深い学び」の例 (第6学年 てこの規則性)

①深い学びの姿

変えない条件を明確にしなが、てこの左右でおもりの重さと支点からの距離の関係を調べ、おもりの重さと支点からの距離の積が同じであれば、てこが水平につり合うというきまりを見いだす姿。

②本時の展開 (2時間に分けて問題解決している)

時間	児童の主な学習活動	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
第1時 つかむ	1 前時の内容を確認し、課題を確認する。 課題 てこをかたむけるはたらきは、支点からの距離やおもりの重さとどのような関係があるのだろうか。	① 観察、実験計画の立案 ○前の時間に獲得した考えから、支点からの距離とおもりの重さを関係付けて調べればよいことを気付けるようにする。 ○その際、片方の腕につるすおもりの位置と重さを決めて、その腕を傾ける働きが変わらないようにすることが大切であることに気付けるようにする。
調べる	2 課題を解決する方法を立案する。【構想】 ・変える条件と変えない条件についての確認 ・結果の整理の仕方の検討 3 実験を行い、結果を表に整理する。【分析】 ・てこのつり合いの条件を制御しながら調べる。 ・おもりの位置とおもりの重さの関係について、表に整理する。	② 結果の整理と分析・解釈 ○支点からの距離とおもりの重さとの関係を表に整理することで、支点からの距離とおもりの重さを関係付けながら考察できるようにする。
第2時 深める	4 課題について考察する。【分析】【改善】 ・力を加える位置や力の大きさとてこを傾けるはたらきとの関係について考える。 ・考えたことを学級の仲間と交流する。	③ 根拠を明確にした議論 ○おもりをつるしてもつり合わなかった場合の距離において、何gのおもりをつるせばつり合うか推論できるようにする。
まとめる	5 結論をまとめる。	④ 仮説の妥当性の検討及び改善 ○他班の結果も客観的に見て、自分の考えの妥当性を検討し、必要に応じて改善できるようにする。
振り返る	6 振り返りを書く。【適用】 ・前の時間の実験とつなぎ、自分の言葉でまとめを書く。 ■授業後の意識 てこをかたむけるはたらきは、支点からの距離とおもりの重さの積で表すことができることが分かった。てこの左右でこの積が同じであれば、てこが水平につり合うというきまりが分かった。このきまりを使えば、前の時間にやった実験で支点からの距離が遠くなるほど小さい力でおもりを持ち上げることができるということとつながった。 次の時間には、実験でつり合わなかった位置でも、計算しておもりの重さを求めて、つり合うかどうか調べてみたい。	

小学校【生活科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛驒教育事務所

1 生活科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・自分の願いをもち、体験活動と表現活動を繰り返しながら楽しさを実感する学び
 「対話的な学び」・・・直接対象と関わる体験活動を通して、交流したり比較したり試行したりするなどして、新たな気づきを生み出す学び
 「深い学び」・・・個別的な気づきが関係的な気づきへと質的に高まり、新たな気づきを獲得する学び

身近な生活に関わる見方・考え方

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする。

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

第2学年 うごくうごくわたしのおもちゃ

(内容(3) 身近な自然を利用したり、身近にある物をつかったりするなどして遊ぶ活動を行う)

つかむ	・教師の導入や前時の活動から願いを明らかにし、本時の活動に意欲をもつ。	【主体的な学び】試行錯誤や繰り返す活動の設定 ※低学年は、明確な見通しをもつことは難しい特性があることに留意する。 ・楽しく遊ぶおもちゃを提示し、製作したいという意欲を引き出す。 ・自分の思いを表現できる場を設定する。 ・作ったおもちゃを試す場を設定する。 ・おもちゃを工夫するための材料を多様に用意しておく。 例：自分のおもちゃや設計図を見直す。 「もっと速く、もっと高く、もっとおもしろく動くおもちゃにしたい。」 例：自分の思いをペアや子に話す。 「もっと高くとばしたい。ゴムを2本にしてみたい。」
深める	・自分の願いの実現に向けて、繰り返し事象と関わったり、試行錯誤して何度も挑戦したりする。 ・自分が発見したことと仲間が発見したことを比べ、似ていることや違うところを見つける。	【対話的な学び】伝え合い交流する場の工夫 ※低学年は、「思考」と「表現」が一体的になる特性があることに留意する。 ・気づきの質が高まるように、自分が発見したことや工夫したことを発表し、仲間から意見をもらうことができる場を設定する。 ・仲間の発見や工夫を聞くことで、自分のおもちゃとの違いに気付けるようにする。 ・伝え合う活動の後には、次にどう工夫したいのか思いを表現できるようにする。 例：自分の発見や工夫を発表する。 「高くジャンプできるように、ゴムの本数を2本にしてみたら、高くとぶようになりました。」 「カエルが跳んでいるように見えるように、緑色を塗りました。黒いボタンを付けて目にしました。」 例：次にしたいことを考える。 「〇〇さんは、ゴムの本数を多くしたらよかったみたいだから、自分もゴムの本数を増やせば、より速く走る車になるようにしたい。」
まとめる	・活動を通して、気付いたことを基に考え、表現することで自らの活動や対象を見つめなおしたり、過去のことや周りのことと比べたりして気づきの質を高めていく。	【深い学び】【主体的な学び】振り返り表現する機会の在り方 ※低学年は、自らの学びを直接的に振り返ることは難しい特性があることに留意し、相手意識や目的意識に支えられた表現活動を行う中で、自らの活動を振り返ることができるようにする。 ・学びのよさに気付けるように、一人一人の実態に応じて声かけをする。 教師の例：「〇〇さんのゴムの工夫を真似することで、とっても速く走るようになっていたね。 「かっこよくしたいと言っていたけど、このはねがついているところが、とってもかっこいいと思うよ。」

小学校【音楽科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

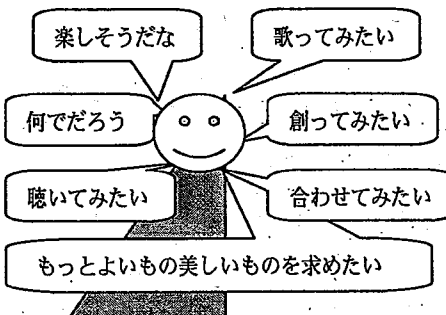
飛騨教育事務所

1 音楽科における「主体的・対話的で深い学び」のとらえ

- 「主体的な学び」・・・音や音楽を感じ取り、願う姿に対して課題意識と見通しをもって、試行錯誤しながら思いや意図をもって音楽で表現したり、よさを味わって聴いたりする学び
- 「対話的な学び」・・・教員や友達、地域の人など（自己内対話も含む）との音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを手掛かりに自己の考えや感性を広げる学び
- 「深い学び」・・・「音楽的な見方・考え方」を働かせて、課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、よりよい音楽表現を生み出したり、音楽のよさや美しさを見いだしたりする学び

音楽的な見方・考え方…「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働き
の視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ - 必然性のある課題を生み出す。 - 表現を工夫する（聴き合う）視点や表現方法を把握する。	【主体的な学び】 「新しい表現や美しいものとの出会い」「前教材との違い」「実際の表現と思いや願いとのずれ」「意図的な比較演奏」など本時のねらいにあった導入の工夫をし、必然性のある課題を設定する。 - どの要素の働きに着目するか（視点）、どのように音楽で表すか（方法や条件）を明確に示し、見通しをもたせる。	
深める - 課題を追究する。 - 仲間と交流し、本時の視点について、試行錯誤し、表現を深めたり更新したりしながら追究していく。	【主体的な学び】自ら進んで追究する学びになっているか - 音楽を形づくっている要素や仕組みを手掛かりに自分の考えをもつ場を保障する。 - 例)「友達との会話がはずんでいくような音楽にしたいので、リズムを徐々に変化させて表現したい」 - 自己課題や学習状況に応じて、方法やツールを選択できる環境設定を工夫する。 【対話的な学び】他者との対話によって自分の考えを広げたり深めたりする学びになっているか - 仲間と交流、工夫する際の視点やどんなやりとりをすればよいのか、何について仲間と交流すればよいのか、具体を示す。 - 考えたことを実際に音で試したり、聴き合ったりして検討し合う場面を位置付ける。 例) 自分「私は続く感じの旋律にしたかったから最後の音を○にしたよ。聴いてね。」 - 仲間「最後の音が○で終わる感じがしたよ。でも同じ音が多いから、その前の音を変えてみたらどうかな。」 【深い学び】感じ方や考え方、表現が豊かになる学びになっているか - 音楽的な見方・考え方を働かせて工夫したことのよさや面白さを教師が具体的に価値付け、全体でそのよさを音で確かめるなどして共有する。 例) 教師「にぎやかな感じを出すために呼びかけとこたえのそれぞれのリズムを徐々に細かくしたところが面白いね。どんな感じがするか一度みんなで聴いてみようか。」 - 教師の問い返しや意図的な指導（抽出グループの発表や比較など）によって音楽的な見方・考え方を働かせ、考えや感じ方を更新したり、自分の表現を見直したりする場を位置付ける。	
まとめる - 本時できたこと・分かったことや自己の変容を振り返る。 - 次時の見通しをもつ。	【深い学び】 - 題材や教材または、本時の最初の表現や感じ方と比べて、本時の視点についての変容や深まりが実感できるように音や音楽で確認する。 - 例)「授業の最初は～だったけど、旋律の動きに合わせて強弱を工夫して言葉をはっきり歌ったら、未来に向かう強い思いが表現できて気持ちがよかった。」 【主体的な学び】 - 工夫したことのよさや面白さを具体的に価値付け、何ができたか、どんなよさが味わえたか、どうしてできたのか、仲間と学ぶことのよさなど、認知面と情意面の両面から振り返る。 - 例)「〇〇さんのアドバイスで音のつなげ方を工夫したら、終わる感じのするお気に入りの旋律ができたよ。次の時間は、みんながつくった旋律をつなげてみたいな。」	

小学校【図画工作科】 「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

「主体的な学び」 ・・・	意欲的な学習を積み重ね、つくりだす喜びを味わい、最後までやり遂げることができる学び。学習活動の見通しをもち、また、学習したことを自ら振り返り次の学びにつなげていく学び
「対話的な学び」 ・・・	創造活動を通して、教員や友達、地域の人、自分自身など対話し、自分の見方や感じ方を深めたりよさや美しさなどを幅広く味わったりする学び
「深い学び」 ・・・	造形的な見方・考え方を働かせ、主体的に学ぶ意欲や豊かな発想・構想、創造的な技能、造形的なよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞の能力が質的に高まる学び

造形的な見方考え方・・・ 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	- 自分の感じたこと、途中の作品から、やりたいことを話す。 - 表現方法やポイントを理解する。 本時の課題を確認する。 - 本時の個人課題を決める。	児童が自分の課題や学習状況を判断し、〔共通事項〕の視点から造形的な見方・考え方を働かせて、自ら表現形式や技法、材料や用具、資料などを選択して表現したり、鑑賞したりする。 【主体的な学び】 - 生活体験の他、材料や用具、表現方法から一人一人が自分の表したいもの（主題）を見付けさせる。 「自らの思いや願いとのずれ」「新しい表現や美しいもの、おもしろいものとの出会い」などから自分の課題や学習状況を判断させる。 - 教師の示範作品を見せ、示範作品と異なる新しいアイデアを出すことのねうちを伝える。 「ポーズ」や「色」「背景」など表現のための工夫のポイントまたは鑑賞するための視点を示すことで、自分の課題解決のための見通しをもたせる。 - 集めたたくさんの落ち葉などの素材を、児童と共に形と色の種類別に分けることで、素材の形や色への見方・感じ方を深める。 児童が自分の課題を解決するために、試したり、交流したりする。
	- 個人課題を追求する。 - 友達のアドバイスや様々な資料をもとに試行錯誤し、表現を深め、広めていく。 - 仲間の考えや表現のよさに気付く。 - さらなる個人追求をする。	【主体的な学び】 - 他の児童の表現とは違う新しいアイデアで表現しているよさを机間指導の中で紹介する。 「どのようにつくったのか（描いたのか）」を問い、価値付けることで、自分の表現を振り返るとともに、自信をもってさらなる追求に向かうことができるようにする。 【対話的な学び】 - 班隊形で活動（表現）することで、必要に応じて仲間の表現を見たり、互いに教え合ったりすることができるようにする。 「作品を転がして遊びながら形や色を確かめる坂を教室の中央に一つ準備する」「製作途中の帽子をかぶって確かめる鏡を一枚準備する」など、複数の児童が試し確かめる中で自然な交流が生まれるよう、お互いの表現のよさを学び合う場を設定する。 - 材料（素材）や用具の特徴やよさを十分感じ取ることができるよう、材料（素材）や用具に十分触れたり、試したりできるようにする。 時間を設定する。 【深い学び】 - うまくいかなかった場合も、壊してつくりなおす姿を価値付け、「つくり、つくりかえ、つくる」ことでよりよいものより楽しいものができることを実感させる。
まとめる	- 本時での自己の変容や苦労したこと、困ったことを振り返る。 - 次時の見通しをもつ。	児童が自分自身で自己の変容を実感するとともに、活動内容だけにとどまらず、造形的な視点でも振り返る。 【深い学び】【主体的な学び】 - デジタルカメラやスキャナで保存しておいた前時までの作品を画面に映し、本時終了での作品と比べながら振り返る（何をやったかだけでなく、どのような感じになったのかを感じ取る）ことで、表現の変容を確かめさせる。 - 互いの作品（表現）を見合いながら「身近な材料でこんなに面白いものができるんだ」「次はもっと～したい」「家でも何かつくってみたい」という意識を生み出す。 - 題材のはじめに限らず、材料や用具の特性を十分に楽しみ、そこから生まれた形や色を基にあとから題名をつけることで、表した主題を考えさせることもできる。

小学校【家庭科】 「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 家庭科における「主体的・対話的で深い学び」のとらえ

「主体的な学び」 ・・・	題材を通して見通しをもち、日常生活の課題の発見や解決に取り組んだり、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組んだり、実践を振り返って新たな課題を見付け、主体的に取り組んだりする態度を育む学び
「対話的な学び」 ・・・	児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたり、家族や身近な人々などとの会話を通して考えを明確にしたりするなど、自らの考えを広げ深める学び
「深い学び」 ・・・	児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、さらに家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学び

生活の営みに係る見方・考え方・・・家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	・生活の中から問題を見だし、課題を明らかにする。 ・解決に向けて、どのような順序や方法で追究すればよいか見通しをもつ。	児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けての見通しをもつ。
		【主体的な学び】 「〇〇について自分の生活を見つめてみよう。」「どんな生活を送りたい？（どのように改善したい？）」と問い、児童が日常生活の中から問題を見だし、改善に向けて具体的な課題を設定できるようにする。 - 知識及び技能の習得を図る学習では、具体物を用いた資料提示や憧れをもてるような示範を行い、児童の追究意欲を引き出す。 - 児童が考えた追究方法を認め、価値付け、児童が安心して課題追究を行えるようにする。 - 願いがあってもやり方が分からず困ってしまうことがないように、教えるべきことは教え、児童が追究の見通しをもてるようにする。
深める	・実践的・体験的な活動（調理、製作等の実習や観察、調査、実験など）を通して追究する。 ・仲間との交流を通して、考えを広げ深める。 ・交流したことを基にさらに追究する。	児童が生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、試行錯誤したり、仲間と交流したりして課題を追究する。
		【主体的な学び】 - 画一的な追究方法を提示するのではなく、様々な方法で追究できるよう教材や学習環境を充実させたり、複数の追究方法から選択して取り組んだりできるようにする。 【対話的な学び】 「他に同じようなやり方はある？」「違うやり方はあるかな？」と問い、自分の考えと仲間の考えとの共通点や相違点に目を向けられるようにする。その際、ペアやグループ等の活動において、考えを集約・分類するなど、互いの考えを可視化し、比較できるように学習環境を工夫する。 【深い学び】 - 課題解決に向けて収集した情報を、「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から多面的に分析・考察するよう促す。その際、「何を基に考えた？」と問いながら、既習事項や生活経験などと関連付けて考えられるように指導する。
まとめる	・自己の変容や苦労したこと、困ったことを振り返るとともに、家庭実践の見通しをもつ。 ・次の学習の見通しをもつ。	児童が自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長（学び）を自覚し、実践する喜びに気付いたりする。
		【深い学び】【主体的な学び】 「最初にイメージしたものになったかな？」など、はじめに設定した課題について振り返ることができるように問いかける。また、「〇〇はさらに改善（工夫）できないかな？」「〇〇できなかった原因は何だろう？」などと問いかけ、振り返りから新たな課題を引き出す。 - 学習したことを、「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から評価・改善することができるように、まとめの視点を明らかにする。また、「いつ、どんな場面で、どのように実践できそうかな？」と問い、家庭実践つなぐために必要なことを考えることができるようにする。

小学校【体育科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 体育科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・運動の楽しさや健康の意義等に気づき、見通しをもって最後まで粘り強く課題達成に向けて取り組み、やり遂げようとする学び
 「対話的な学び」・・・運動や健康についての課題解決に向けて、教員や友達、地域の人及び書物等を含めた、他者との対話を通して行われる協働的な学び（自己内対話も含む）
 「深い学び」・・・「体育の見方・考え方」を働かせて、課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく課題解決をする学び

体育の見方・考え方…「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様なかわり方と関連づけること。」

2 「主体的・対話的で深い学び」の例 【B 器械運動「マット運動」5年 開脚前転】

つかむ	- めざす姿を理解する。 - 本時の個人課題を決める。 - 技術ポイントを把握する。 - 練習方法を確認する。	○単元全体や本時で身に付ける技能についての「めざす姿」を具体的に示すことで、終末での姿をイメージさせ、学習の意欲や見通しをもたせる。 例：「開脚前転ができるようになる」→師範をして見せる。段階表で3点の姿等 【主体的な学び】全体計画会 - めざす姿になるための個人課題を明確にする。 例：「前の時間は尻もちをついて2点だったので今日は3点の姿をめざすぞ。」 - 課題達成のための技術ポイントがわかるようにする。 例：「起き上がるためには、脚の開くタイミングを遅らせて勢いをつけて回転するといいんだな。」 - 練習方法や場がわかるようにする。 例：試技を見合いアドバイスしあいながらの練習 【対話的な学び】グループ計画会 - 個人課題を仲間と共有することで、お互いの関わり方の焦点化をする。 例：「私は3点の姿になるために…」「○○さんは…を意識するんだな。」
深める	- 個人課題を追求する。 - 仲間との教え合い、励まし合いを通して課題を追究する。 - 試行錯誤を重ねながら、さらに個人追求をする。	【主体的な学び】課題解決に向かう練習 - 技術ポイントを意識して、課題達成に向けて粘り強く練習に取り組む。 【対話的な学び】協働的な学びによる練習 - 見てほしいポイントを仲間に伝えてから試技をする。そのできばえについて、お互いに見合い、教え合う。 例：自分「脚を開くタイミングを見ててね。」仲間「いいよ。」 自分「どうだった。」仲間「また回転と同時だったから、もう少しがまんだよ。」 自分「開くタイミングで、みんなで『いけ!』と声をかけよう。」 - 動きの質を高めるために、できるようになった児童の試技をみて、自分の練習に取り入れるとよさそうなことを考えてさらに練習に励む。 例：「ばくは、技に入るときに、ひざのばねを使ってもう少し強くけつたら、さらに勢いが出て起き上がれそうだな。」 【深い学び】質的な高まりが見られる練習 - 体育の見方・考え方を働かせて、課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく課題解決をしようとして練習に取り組む。 例：「できない→できる→うまくできる→力強くできる」への変容の過程 ～体育の見方・考え方の視点～ - 運動の特性・学習過程・技術ポイント・練習内容・練習方法・場の設定等
まとめる	- 本時での自己の変容やよかったこと、困ったこと等を振り返る。 - 次時の見通しをもつ。	【主体的・対話的で深い学び】テスト会・グループ反省会 - 本時のできばえを、自己評価・相互評価する中で、できた喜びや変容を実感する。 例「今日は3点になりました。それは、脚を開くタイミングを遅らせて起きるための勢いをつけたからです。○○さんのアドバイスのおかげです。ありがとうございます。」 【主体的な学び】全体反省会 - 次回のめざす姿をイメージすることができる。 例「次回は、補助倒立という新しい技に挑戦しましょう。」

小学校【外国語科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛驒教育事務所

1 外国語活動・外国語科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・ 目的や場面、状況等に応じて、積極的にコミュニケーションを図る学び
 「対話的な学び」・・・ 自分の考えや気持ちを、相手や他者に配慮しながら伝え合うことができる学び
 「深い学び」・・・ コミュニケーションを通して、自分の考えを再構築することができる学び

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

We Can 2 Unit2 Welcome to Japan.より

つかむ	・設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。	【主体的な学び】 ・児童が「楽しそう」、「やってみたい」と思う活動を設定する。(内容が先、英語は後) 例：(目的) 日本の魅力を伝えるために、 (場面・状況) PR大使として、おすすめの行事や日本食を紹介する (誰に) ALT に 「日本に興味をもってもらうために、日本の行事や祭り当てクイズを作ろう」など ・教師と児童とのやり取りを通して、見通しをもつ。 例：T: We have many exciting events in Japan. What events do we have? S1: We have New Year's Eve. T: New Year's Eve? Good! How about you? S2: We have <i>hanami</i>. T: Nice! Everyone, what Japanese events do we have?
深める	・目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。 ・目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。	【主体的・対話的な学び】活動1 ・既習内容を駆使して、コミュニケーションする。(活動が先、指導は後) 例：S1: We have fireworks festivals. S2: We have <i>hanami</i>. 【対話的な学び】中間交流 ・内容の質を高めるための手立てと困ったことなどを共有する。 例：T: 「外国の人に花見を伝えるにはどんなことを伝えたらいい?」 (目的を確認する) S3: 「できることを伝えるといいと思う。」 T: 「どんな表現が使えるかな?」 S4: 「You can ～が使えるそう」(既習内容を想起させる) T: 「そうだね。花見で何ができるの?」 S5: 「きれいな花が見ることができたり、おいしいものを食べたりできる。」 T: 「知っている英語で言えるかな?」 S6: 「You can see beautiful flowers and eat delicious food.」 T: 「Very good!! そうやって詳しく伝えていこう。」
まとめる	・内容面・言語面で自らの学習のまとめと振り返りを行う。	【深い学び】活動2 ・中間交流を通して共有したことをもとに、コミュニケーションする。 例：S1: <u>In summer, we have fireworks festivals. You can wear yukata and geta. Fireworks festivals are very exciting.</u> (花火の季節やその様子などが加わる) S2: <u>In spring, we have hanami. You can see beautiful cherry blossoms all over Japan. You can eat delicious food under cherry blossoms. I like hanami.</u> (花見の季節や花見でできること、自分の感想が加わる) 【主体的・対話的な学び】振り返り ・内容面と言語面から振り返りを行う。 例：「おすすめの日本食や日本の行事について、そのよさ加えて魅力を伝えることができた。(内容面) その時に、You can～使って伝えることができた。(言語面)」

中学校【国語科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 国語科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・生徒が見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び
- 「対話的な学び」・・・生徒同士や教師、地域の人や本の作者などとの対話が図られるような言語活動を行い自己の考え方を広げ深める学び
- 「深い学び」・・・国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、自分の思いや考えを形成し深める学び

言葉による見方・考え方

生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	・前時までに学習したことを確認したり単元を貫く課題を確認したりする。 本時の課題を確認する。	【主体的な学び】 ・自ら本時の学びに興味や関心をもたせ、見通しを立てさせる。 ・生徒自身が知識や技能を振り返ることで、身に付けなければならないものをつかませる。 ・「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」 サンプル検討やモデル検討から「見方・考え方とのずれ」を生み出し、自分の課題や学習状況を判断させる。 ・「C読むこと」 心情描写や構成・展開を読むための視点を示すことで、課題解決のための見通しをつかませる。
深める	一人学び ・課題を追究する。 全体交流等 ・友達と交流し、言葉による見方・考え方を深め、広げていく。 教師による ・深めの発問や仲間からの新たな視点の提示で追究する。	【主体的な学び】 ・生徒自ら課題解決に向けて、新たな考え方や方法を生み出させていく。 ・生徒自ら試行錯誤しながらよりよい表現を見ついたり、分析・評価し論述したりさせる。 【対話的な学び】 ・必要に応じてペアやグループ、一斉、スクランブルといった様々な形態で追究することで、仲間の学びのよさや新しい考えが発見できるようにする。 ・黒板やホワイトボードを使って生徒が説明したり付箋等を使用したりして、考えを広げたり深めたりする場を設定する。 ・言葉で表現する際の正誤・適否・美醜といった言語感覚を養うために、相手や目的、場面や状況について判断できるように話し合いをさせる。 【深い学び】 ・教師の働きかけ（深めの発問）や仲間からの新しい視点の投入によってゆさぶり、今までにない考えを形成させる。 ・何度も練習したり問題を解いたりして使えるようにすることで、知識・技能を定着させる。 ・内容や構成、展開、意図を理解させたり表現させたりして言葉への自覚を高める。
まとめる	・本時の中でできたこと、分かったことや自己の変容を振り返る。 ・次時の見通しをもつ。	生徒が自分自身で自己の変容を実感するとともに、活動内容だけにとどまらず、誰のどんな言葉で深まったのかという視点でも振り返らせる。 【深い学び】 ・「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」 提示した観点で追究できたかを確認し、比較できるものがあれば比較することで自己の変容を自覚させる。 ・「C読むこと」 課題に即して読み深まったか、初めの読みと仲間と追究した後の読みとの変容はあるかを確認する。 【主体的な学び】 ・次時への追究意欲や、本時学んだことを振り返り、自身の学びを自覚できる場面を設定する。

中学校【社会科】 「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 社会科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

主体的な学び

- ・児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つために、単元等を通した学習過程の中で動機付けや方向付けを重視すること。
- ・学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにすること。

対話的な学び

- ・実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動の一層の充実を図るために、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ること。

深い学び

- ・教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計すること。

【社会的事象の地理的な見方・考え方（地理的分野）】

社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。

【社会的事象の歴史的な見方・考え方（歴史的分野）】

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。

【現代社会の見方・考え方（公民的分野）】

社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	・提示された社会的事象（資料）から気付いたことや分かったことを話す。 ・教師と生徒が学習する内容を共有する。	生徒が社会的な見方・考え方を働かせて、社会的事象の事実に関心をもち、矛盾点や追究したい視点を明らかにする。 主体的な学び ・生徒が社会的事象と出会い、驚きや疑問を感じるように工夫する。 ・学習課題の設定につながる具体的な事実から疑問が生まれる社会的事象（資料）を考える。 ・必然のある学習課題になっているかどうかを見直す。 対話的な学び ・指導計画の内容を吟味しながら、教師の意図と生徒の認識のズレをなくすために、一人一人の生徒が学習課題にかかわる事実や調べる内容を確実にもち、生徒が互いに共有できる働きかけを行う。
深める	・解決の見通しをもつ。 ・学習課題をするための資料をもとに追究する。 ・仲間の考えと比較・分類したり、総合したり関連付けたりしながら自分の考えを広げ深める。	生徒が学習課題を解決するために、解決の見通しをもって、調べたり、交流したりして自分の考えを広げ深める。 主体的な学び ・資料をもとに学習課題を追究するための視点を生徒と共有し、学習課題を解決するための見通しをもたせる。 ・写真やグラフ、地図、年表、図表、数字等事実を関連付けて考えられるよう資料を工夫する。 対話的な学び ・生徒の思考が全体交流、小集団交流等において、どのように推移していくのかを見極め、必然のある交流を考える。 ・授業者が生徒の発言内容の根拠や立場を明確にしたり、差異やつながりを的確に聞き分けたり、生徒の思考を焦点化させたりする発問を行う。 ・生徒の考えを広げ深めるために、話し合いの内容を問い返したり、ねらいに基づく問い返しを行ったりする。 深い学び ・社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるように問い返しを行い概念形成を図る。
まとめる	・学習した内容について振り返る。 ・自己の変容を確かめる。	生徒が学習した内容を振り返り、自分の考えの変容を自覚する。 深い学び 主体的な学び ・学習した内容（概念形成を図ったこと、自分との関わりや変容、仲間との関わり、さらに考えてみたいことなど）を振り返って、考えたりまとめたりすることができるように板書にキーワードを位置付ける。

中学校【数学科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛驒教育事務所

1 数学科における「主体的・対話的で深い学び」の捉え

- ・「主体的な学び」…問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする学び。
- ・「対話的な学び」…事象を数学的な表現を用いて論理的に説明したり、よりよい考えや事柄の本質について話し合い、よりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにしたりする学び。
- ・「深い学び」…数学に関わる事象や、日常生活や社会に関わる事象について、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、新たな知識・技能を身に付けてそれらを統合し、思考、態度が変容する学び。

「数学科の見方・考え方」…事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。

→「数学的な見方・考え方」は、数学的に考える資質・能力を支え、方向付けるものであり、数学の学習が創造的に行われるために欠かせないものである。

*「数学的な見方」は、事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること。

*「数学的な考え方」は、目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、論理的に考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能を関連付けながら、統合的・発展的に考えること。

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

	めざす生徒の姿	教師の指導（または視点）	指導の具体（または視点）
主体的な学び	数学の系統性を大切にする中で、自ら進んで追究する学びになっているか ・見通しをもち ・粘り強く取り組む ・よりよく解決する ・解決過程を振り返る ・新たな問いを見いだす	・既習と比較できる問題提示 ・個人追究、共同追究での指導（どの子も伸ばす視点）（自己決定、自己選択の場合） ・まとめ（統合、発展の視点） ・評価問題（練習、発展問題） ・振り返り	・「前と比べて…」「分かること、求めること」 ・「教科書を頼りに…」「苦手を補いながら…」 ・「より力を伸ばすために…」 ・「〇〇が目的だから～の方法ですね」 ・「ペア・グループ・全体」（目的に応じた集団で対話を図る） ・「伸び、更に」を語る。「練習、発展問題に取り組む」…など
対話的な学び	仲間と考えを比べることで、自らの思考を広め、深める場になっているか ・数学的表現を用いる ・論理的に説明する ・よりよい考えに高めたり、本質を明らかにしたりする	・数学ならではの表現 ・根拠をもとに表現し、伝える（簡潔、明瞭、的確） ・個人追究、共同追究で深まりを生みだすことを通して（発問、問い返し）	・「式、図、数直線、表、グラフ」等を使って説明する ・結論を述べる。根拠となることと理由として述べる ・「論理的、統合的、発展的」の視点から発問として投げかけたり、学び合いを組織したりすることで本時のねらいに迫る（本時、気付かせたいことに向かって）
深い学び	身に付けた知識・技能を統合し、思考や態度が変容する学び になっているか ・よりよい方法を見いだす ・意味の理解を深める ・新たな概念を形成する ・新たな知識・技能を身に付け統合する	・論理的、統合的、発展的な視点で、気づきを生みだす ・実感を伴った理解へつなぐ ・自分の追究を振り返ったり、発展的に考えたりする中で、理解を深める * 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して…	・「根拠となることは…」 ・「共通していることは…」（「違いは…」） ・「いつも成り立つ…」「いつでも言えますか」 ・「条件を変えるとどうなりますか？」…など ・それらを使って考えたり、説明したりする活動を通して ・1時間や単元を通しての変容、「はじめは～だったけど…」 ・「これまでの学習をまとめると…」

中学校【理科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 理科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・例えば、自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題や仮説の設定をしたり、観察、実験の計画を立案したりする学習活動になっているか、観察、実験の結果を分析し解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりしているか、得られた知識及び技能を基に、次の課題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を把握したりしているか。
- 「対話的な学び」・・・例えば、課題の設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察などの場面では、あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする学習となっているか。
- 「深い学び」・・・例えば、「理科の見方・考え方」を働かせながら探究の過程を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになってきているか、様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか、さらに、新たに獲得した資質・能力に基づいた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおける課題の発見や解決の場面で働かせているか。

(出典：中学校学習指導要領解説 理科編 115頁)

理科の見方・考え方・・・自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること

2 「主体的・対話的で深い学び」の例 (第2学年 化学変化と質量の保存)

①深い学びの姿

化学変化の前後では、原子の組合せが変わるだけで原子の総量は変わらないことから、化学変化の前後の質量の総和が等しいことを見いだす姿。また、1年生で学習した状態変化の質量保存とつないで理解する姿。

②本時の展開

時間	生徒の主な学習活動	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
つかむ	1 密閉したフラスコ中で木炭を燃焼させ、小さくなっていく事象から課題を設定する。 課題 化学変化の前後では、物質全体の質量はどうなるのだろうか。	① 観察、実験計画の立案 ○質量の変化の要因を考えるために、沈殿ができる反応と気体が発生する反応との違いを明確にし、物質の出入りに着目できるようにする。
調べる	2 実験を行い、結果を整理する。【構想】 A 沈殿ができる反応 (うすい硫酸とうすい塩化バリウムを反応) B 気体が発生する反応 (炭酸水素ナトリウムとうすい塩酸を開いた系で反応) 3 課題について考察する。【分析・解釈】【検討・改善】 ・沈殿ができる反応と気体が発生する反応との違いを明確にして考える。 ・考えたことを学級の仲間と交流し、新たな疑問を明確にし、仮説を設定する。	② 結果の整理と分析・解釈 ○一人一人の考えが広がったり深まったりするように、まず個人で考えた後、仲間と意見交流できるようにする。
深める	4 実験Bを閉じた系で行う実験Cをして、結果を分析する。 5 Cの結果をもとに、閉じられた容器の中では、どうして質量が変化しないのか考える。	③ 仮説の妥当性を検討し、改善策を考える ○気体が出て行ったから質量が小さくなったという考えを基に、実験方法をどう改善したらよいか考えられるようにする。
まとめる	6 質量保存の法則についてまとめる。	
振り返る	7 振り返りを書く。【適用】 ・仲間との交流をもとに自分の考えを見直し、自分の言葉でまとめを書く。 ■授業後の意識 化学変化の前後で、物質全体の質量が変わらないことを「質量保存の法則」という。質量が保存される理由は、原子の組み合わせが変わっただけで、物質をつくる原子の数は変わらないためであることが分かった。1年生の時に学習した状態変化と似ている。つまり、物質の質量は原子の数で決まることが分かった。 次の時間は、他の化学変化でも調べてみたい。	④ 知識を相互に関連付けて理解する ○炭酸水素ナトリウム、塩酸のモデル式を提示し、モデル操作する場を位置付けることで、化学変化の前後の原子の数や組合せについて捉えられるようにする。 ○1年生の状態変化でも質量が変化しなかったことを想起できるようにする。

中学校【音楽科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

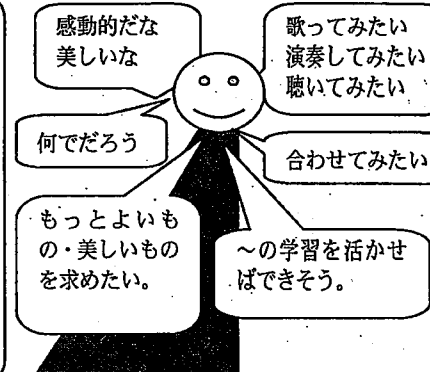
飛騨教育事務所

1 音楽科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・音や音楽を感じ取り、願う姿に対して課題意識と見通しをもって、試行錯誤しながら思いや意図をもって音楽で表現したり、よさを味わって聴いたりする学び
- 「対話的な学び」・・・教員や友達、地域の人など（自己内対話も含む）との音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを手掛かりに自己の考えや感性を広げる学び
- 「深い学び」・・・「音楽的な見方・考え方」を働かせて、課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、よりよい音楽表現を生み出したり、音楽のよさや美しさを見いだしたりする学び

音楽的な見方・考え方・・・「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	- 必然性のある課題を生み出す。 - 表現を工夫する（聴き合う）視点や表現方法を把握する。	【主体的な学び】 「新しい表現や美しいものとの出会い」「前教材・題材との違い」「実際の表現と思いや願いとのずれ」「意図的な比較演奏」など本時のねらいにあった導入の工夫をし、必然のある課題を設定する。 - 小学校からの学びの系統性を把握し、これまでの学びを活用できるようにする。 - どんな要素同士のかかわりに着目するか（視点）、どのように音楽で表すか（方法や条件）を明確にし、見通しをもたせる。	 感動的だな 美しいな 歌ってみたい 演奏してみたい 聴いてみたい 合わせてみたい もっとよいもの・美しいものを求めたい。 ～の学習を活かそう。 何でだろう
深める	- 課題を追究する。 - 仲間と交流し、本時の視点について、試行錯誤し、表現を深めたり更新したりしながら追究していく。	【主体的な学び】自ら進んで追究する学びになっているか - 音楽を形づくっている要素や要素同士のかかわりや仕組みを手掛かりに自分の考えをもつ場を保障する。 例) 上昇する旋律が繰り返されることから、荒れ狂う波の強さを表現したい。そのために息をたっぷり使ってクレッシェンドをつけて歌いたい。 - 自己課題や学習状況に応じて、方法やツールを選択できる環境設定を工夫する。 - 生徒の発言や工夫を拡大譜にまとめたりICTを活用したりするなど、学習のプロセスを可視化する。 【対話的な学び】他者との対話によって自分の考えを広げたり深めたりする学びになっているか - 根拠をもった考えをもとに対話できるよう、何について聴き合い・交流・工夫するのか具体的な視点を示す。 - 考えたことを実際に音で試したり、聴き合ったりして検討し合う場面を位置付ける。 【深い学び】感じ方や考え方、表現が豊かになる学びになっているか - 音楽的な見方・考え方を働かせて工夫したことのよさや面白さを教師が具体的に価値付け、全体でそのよさを音で確かめるなどして共有する。 - 教師の問い返しや意図的な指導（抽出グループの発表や比較など）によって音楽的な見方・考え方を働かせ、自分の表現を見直したり、更新したりする場を位置付ける。	
まとめる	- 本時できたこと・分かったことや自己の変容を振り返る。 - 次時の見通しをもつ。	【深い学び】 - 題材や教材または、本時の最初の表現や感じ方と比べて、本時の視点についての変容や深まりが実感できるように音や音楽で確認する。 【主体的な学び】 - 工夫したことのよさや面白さを具体的に価値付け、何ができたか、どんなよさが味わえたか、どうしてできたのか、仲間と学ぶことのよさなど、認知面と情意面の両面から振り返る。 例) 授業の最初は～だったけど1時間を通して・・・」 - 題材を通して、日本の歌にもいろいろな歌い方が分かっておもしろかった。実際に歌ったソーラン節は、力強いリズムが繰り返される中、合いの手が入ってにぎやかな感じになるところから、漁をしている様子が目に浮かんだ。民謡の背景を知って聴くことでより身近に感じる事ができた。	

中学校【美術科】 「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛驒教育事務所

1 美術科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

「主体的な学び」 ・・・	対象や事象を造形的な視点で捉え、自己の創出した主題や、対象の見方や感じ方を大切に学ぶ。学習活動の見通しをもち、また、学習したことを自ら振り返り次の学びにつなげていく学び
「対話的な学び」 ・・・	創造活動を通して、説明し合ったり批評し合ったりして、自分の見方や感じ方を深めたりよさや美しさなどを幅広く味わったりする学び
「深い学び」 ・・・	造形的な見方・考え方を働かせ、主体的に学ぶ意欲や豊かな発想・構想、創造的な技能、造形的なよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞の能力が質的に高まる学び

造形的な見方・考え方・・・表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つ か む	- 自分の感じたこと、途中の作品から、やりたいことを話す。 - 表現方法やポイントを理解する。 本時の課題を確認する。 - 本時の個人課題を決める。	生徒が自分の課題や学習状況を判断し、[共通事項]の視点から造形的な見方・考え方を働かせて、自ら表現形式や技法、材料や用具、資料などを選択して表現したり、鑑賞したりする。 【主体的な学び】 - 生徒自身の体験や心の内面を深く見つめたり、身近な人や環境、さらには社会全体に目を向けたりしながら、一人一人が表したいもの（主題）を見付けさせる。 「自らの思いや願いとのずれ」「新しい表現や美しいもの、おもしろいものとの出会い」などから自分の課題や学習状況を判断させる。 - 教師や仲間の作品（表現、見方）と異なる新しいアイデアを出すこと（見方をする）のねうちを伝える。 - 例えば線の「太さ」「長さ」「方向」など、表現のための工夫のポイント（造形の要素）または鑑賞するための視点を示すとともに、生徒の活動レベルの示範を見せることで、自分の課題解決のための見通しをもたせる。 - 小学校からの学びの系統性を把握し、これまで学んだことが生かせるようにする。 - より質の高い目標をもたせ、失敗しても何度でもつくり直す経験をさせ、それを超える満足感と自信をもたせる。
	- 個人課題を追求する。 - 友達のアドバイスや様々な資料をもとに試行錯誤し、表現を深め、広めていく。 - 仲間の考えや表現のよさに気付く。 - さらなる個人追求をする。	生徒が自分の課題を解決するために、試したり、交流したりする。 【主体的な学び】 - 他の生徒の表現とは違う新しいアイデアで表現しているよさを机間指導の中で価値付け、紹介する。 「どのようにつくったのか（描いたのか）」を問い、価値付けることで、自分の表現を振り返るとともに、自信をもってさらなる追求に向かうことができるようにする。 【対話的な学び】 - 話し合う時間（批評会等）は、毎時間行うのではなく、題材を通して「さらに高いものを追求する時間」の前など必要な段階で行う。 - 班隊形で活動（表現）することで、必要に応じて仲間の表現を見たり、互いに教え合ったりすることができるようにする。 - 仲間の作品を見合う時間を設けるときは、「導入で示した工夫のポイント」や「主題と表現のつながり」という視点をもち鑑賞させる。 - 鑑賞では、あえて班に1枚の作品（カラーコピーしたもの）を配付し、自分の見つけたことをメモした付箋を貼っていくことで自然な交流や学び合いを生み出す。 【深い学び】 - 主題と表現とのつながりを問いかける。 - 鑑賞では、作品の見方を深めるために「見付けた事実をどんどん出す活動」から、「状況を想像する活動」へと発展させる。
ま と め る	- 本時での自己の変容や苦労したこと、困ったことを振り返る。 - 次時の見通しをもつ。	生徒が自分自身で自己の変容を実感するとともに、活動内容だけにとどまらず、造形的な視点でも振り返る。 【深い学び】【主体的な学び】 - デジタルカメラやスキャナで保存しておいた前時までの作品を画面に映し、本時終了までの作品と比べながら振り返る（何をやったかだけでなく、「主題」に照らしながら、どのような感じになったかを感じ取る）ことで、表現の変容を確かめさせる。 - 主題を表現するためにさらにやりたいこと（次時の課題）を見付けさせる。 - 鑑賞では、何かを見付けるだけでなく、「作品全体からのイメージ」を感じ取ることも大切であることを確認する。

中学校【保健体育科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 体育科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・運動の楽しさや健康の意義等に基づき、見通しをもって最後まで粘り強く課題達成に向けて取り組み、やり遂げようとする学び
 「対話的な学び」・・・運動や健康についての課題解決に向けて、教員や友達、地域の人及び書物等を含めた、他者との対話を通して行われる協働的な学び（自己内対話も含む）
 「深い学び」・・・「体育の見方・考え方」を働かせて、課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく課題解決をする学び

体育の見方・考え方…「運動やスポーツを、その価値や特質に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様なかわり方と関連づけること。」

2 「主体的・対話的で深い学び」の例 【中学校2年生女子 球技「バレーボール」】

つかむ - めざす姿を理解する。 - 本時の個人課題を決める。 - 技術ポイントを把握する。 - 練習方法を確認する。	○単元全体や本時で身に付けるめざす姿を具体的に示すことで、終末の姿をイメージさせ、主体的に課題解決に向かう意欲や活動の見通しをもたせる。 例：「空いているスペースをねらって攻めるゲームをしよう」（後方・人がいない所） ※前時のゲームの様相を提示して、生徒の実態から課題を共有する。（ICT・写真等）
深める - 個人課題を追求する。 - 仲間との教え合い、励まし合いを通して課題を追究する。 - 試行錯誤を重ねながら、さらに個人追求をする。	【主体的な学び】全体計画法 ・めざす姿になるための個人課題を明確にする。 例：「3本目を返す時に、少し下がって助走をつけて相手コートの後方をねらうぞ。」 ・課題達成のための技術ポイントがわかるようにする。 例：「助走を1，2歩とる」「ひざのばねを使う」等 ・練習方法がわかるようにする。 例：「ネットに近いところで2本目をふんわり山ボールで上げてもらい、3本目を前方へ移動しながら、ひざのばねを使いオーバーハンドパスで強く返球をする練習を行う。」 【対話的な学び】グループ計画法 ・個人課題を仲間と共有することで、お互いの関わり方の焦点化をする。 例：「私は遠くへ返球するために…」「〇〇さんは…を意識するんだな。」 【主体的な学び】課題解決に向かう練習 ・技術ポイントを意識しながら、課題達成に向けて粘り強く練習に取り組む。 【対話的な学び】協働的な学びによる練習 ・見てほしいポイントを仲間に伝えてから試技をする。そのできばえについて、お互いに見合い、教え合う。 ※作戦盤、ICT、掲示物、ホワイトボードなどの活用 ・しがい意図的なペアやトリオを組ませて練習を行う。 ・教師と困り感のある生徒が特別の場で練習を行う。 ・試しのゲームを行う。 ※しがいが必要に応じてタイムアウトを取り、勝利のために今大切なことや、本時、勝利のためにめざしているゲームの様相についての確認をする。 【深い学び】質的な高まりが見られる練習及びゲーム ・体育の見方・考え方を働かせて、課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく課題解決をしようとして練習に取り組む。 例：「できない→できる→うまくできる→力強くできる」への変容の過程 ～体育の見方・考え方の視点～ ・運動の特性 ・学習過程 ・技術ポイント ・練習内容 ・練習方法 ・場の設定等
まとめる - 本時での自己の変容やよかったこと、困ったこと等を振り返る。 - 次時の見通しをもつ。	【主体的・対話的で深い学び】グループ反省会 ・本時のできばえを、自己評価・相互評価する中で、できた喜びや変容を実感する。 例「今日は2勝できました。3本目の返球を人のいない後方をねらって返したことで、相手のレシーブ体型が乱れて得点につながるケースもありました。」 【主体的な学び】全体反省会 ・次回のめざす姿をイメージすることができる。 例「次回は、前方や後方などの空いているところをねらってゆさぶりながら…」

中学校【技術・家庭科】 「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 技術・家庭科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

「主体的な学び」 ・・・	現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見だし課題を設定し、見通しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組む態度を育む学び
「対話的な学び」 ・・・	他者に対話したり協働したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりする学び（技術分野では、例えば、直接、他者との協働を伴わなくとも、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るといったことなども対話的な学びである。）
「深い学び」 ・・・	生徒が生活や社会の中から問題を見だして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価・改善といった一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学び

- 生活の営みに係る見方・考え方・・・ 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること
- 技術の見方・考え方・・・・・・・・ 生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかわむ	・生活や社会の中から問題を見だし、課題を明らかにする。 ・解決に向けて、どのような順序や方法で追究すればよいか見通しをもつ。	生徒が生活や社会の中から問題を見だして課題を設定し、その解決に向けての見通しをもつ。
	・実践的・体験的な活動（製作、制作、育成、調理等の実習や、観察・実験、見学、調査・研究など）を通して追究する。 ・仲間との交流を通して、考えを広げ深める。 ・交流したことを基にさらに追究する。	生徒が生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら、試行錯誤したり、仲間と交流したりして課題を追究する。 【主体的な学び】 ・自分の生活や、社会で利用されている技術を見つめる場を位置付け、生活や社会の中から問題を見だし、改善に向けて具体的な課題を設定できるようにする。 ・知識及び技能の習得を図る学習では、具体物を用いた資料提示や憧れをもてるような示範を行い、生徒の追究意欲を引き出す。 ・生徒が考えた追究方法を認め、価値付け、生徒が安心して課題追究を行えるようにする。 ・願いがあってもやり方が分からず困ってしまうことがないように、教えるべきことは教え、生徒が追究の見通しをもてるようにする。
	・自己の変容を振り返り、実践の見通しをもつ。 ・次の学習の見通しをもつ。	生徒が自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長（学び）を自覚し、実践する喜びに気付いたりする。 【深い学び】【主体的な学び】 ・「〇〇はさらに改善（工夫）できないかな？」「〇〇できなかった原因は何だろう？」などと問いかけ、振り返りから新たな課題を引き出す。 ・学習したことを、「（技術分野）社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性など」「（家庭分野）協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から評価・改善することができるよう、まとめの視点を明らかにする。また、家庭分野では、「いつ、どんな場面で、どのように実践できそうかな？」と問い、家庭実践つなぐために必要なことを考えることができるようにする。

中学校【外国語科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 外国語科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・ 目的や場面、状況等に応じて、積極的にコミュニケーションを図る学び
 「対話的な学び」・・・ 自分の考えや気持ちを、相手や他者に配慮しながら伝え合うことができる学び
 「深い学び」・・・ コミュニケーションを通して、自分の考えを再構築することができる学び

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

2 「主体的・対話的で深い学び」の例 NEW HORIZON English Course2 Presentation2 町紹介より

つかむ	・設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。	【主体的な学び】 Oral interactive introduction ・「どんな目的で」、「どんな場面や状況で」、「誰に」を明確にする。 例：(目的) 自分の町にたくさんの外国人観光客に来てもらうために、 (場面) 町PRパンフレットをつくる (状況) 観光大使として (誰に) 日本を初めて訪れる外国人に ・伝えたい内容をもつ。(内容が先、英語は後) 例：(内容) おすすめの場所や食べ物、体験してほしい習慣や伝統行事など
深める	・目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。 ・目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。	【主体的・対話的な学び】活動1 ・既習内容を駆使して、コミュニケーションする。(活動が先、指導は後) 例：S1: I live in Takayama. My city is famous for old town. There are many old houses and traditional buildings. You can enjoy. S2: I live in Takayama. My city is famous for delicious food. Takayama ramen is one of them. It's very delicious. 【対話的な学び】中間交流 ・内容の質を高めるための手立てと Common errorなどを共有する。 例：T: Do you have any questions? (つまずきを解消する) S3: 「小京都と呼ばれていることを伝えたい。」 T: How can we say? S4: 「We call～が使えそう」(既習内容を想起させる) T: Yes. We can say, "We call Takayama small Kyoto".
まとめる	・内容面・言語面で自らの学習のまとめと振り返りを行う。	【深い学び】活動2 ・中間交流を通して共有したことをもとに、コミュニケーションする。 例：S1: I live in Takayama. <u>It's center of Japan.</u> My city is famous for old town. <u>It's called "Small Kyoto".</u> There are many old houses and traditional buildings. <u>You can see beautiful buildings and traditional Japanese buildings.</u> <u>You can feel traditional Japan.</u> (高山市の位置や古い町並みでできることが加わる) S2: I live in Takayama. <u>It's north of Gifu.</u> My city is famous for delicious food. Takayama ramen is one of them. <u>The taste is clear and simple.</u> It's very delicious. (高山ラーメンの味を詳しく伝えている) 【主体的・対話的な学び】振り返り ・内容面と言語面から振り返りを行う。 例：「初めて日本を訪れる外国人に高山市をPRするために、おすすめの場所やおすすめの食べ物について、その魅力を詳しく伝えることができた。」(内容面) 発話したことを町PRパンフレットとして書きまとめる。(言語面)

【生活単元学習】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛驒教育事務所

1 特別支援教育における「主体的・対話的で深い学び」のとらえ

- 「主体的な学び」・・・なぜ、何のために学習活動に取り組むのかを理解し、見通しをもって自分から取り組もうとする学び
- 「対話的な学び」・・・教師や仲間、家族など、他者とのかかわりの中で、他者と自分の気持ちや考えの相違点を比較しながら、自己の考えを広げ深める学び
- 「深い学び」・・・各教科等の見方・考え方を働かせながら、知識をより深く理解したり、考えを形成したり、解決策を考えたりする学び

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

飛驒教育事務所 終末からの授業改善の具体例「みんなで遊ぼう ○○まつり」より

導入	・気持ちのよい挨拶や話し方のコツを確認する。 ・本時の課題を確認する。 ・本時の個人課題を決める。	子どもが本単元の課題や本時の学習内容を確認することで、本時の課題と自分のめあてを明確にする。 【主体的な学び】 ・「お客様に喜んでもらうようなゲーム屋さんを開店しよう。」等の、単元を通して大切にしたい願いや目標をもつ。 ・単元を通して大切にしたい願いや目標を実現したり、目標を達成したりするための手段や方法を考え、理解する。 ・本時の学習活動の課題やそれを解決するための手段や方法を考え、理解する。 ・本時の学習活動で、自分の役割や努力することを明確にもつ。 【対話的な学び】 ・本時の学習活動で、仲間の役割や仲間が努力すること等が分かる。
活動	・試しⅠをする。 ・教師や仲間からの評価やアドバイスをもとに、課題について考える。 ・試しⅡをする。 ・教師や仲間からの評価やアドバイスをもとに、課題について考える。	子どもが本時の課題を達成するために、仲間とともに学習活動に取り組む。 【主体的な学び】 ・自分の役割や努力することを意識し、ゲーム屋さん役お客さん役として活動する。 ・改善点を意識して、ゲーム屋さんやお客様として活動する。 【対話的な学び】 ・「いらっしゃいませ。」「ありがとうございました。」と挨拶をしたり、「ここから投げます。」「○点です。」と伝えたりする。 ・お客様は、ゲームをして楽しかったことや困ったことを伝える。 ・仲間が活動している様子を見て、それに対するアドバイスをする。 ・仲間からのアドバイスについて、自分の思いや考えを伝える。 ・仲間からアドバイスをもらい、自分の言動について振り返る。 ・仲間や教師の評価により、自分の変容や努力に気付く。 【深い学び】 ・もっと楽しいゲーム屋さんにするためには、獲得できる得点を低くしたり、ボールが当たりにくいように的の置き方を工夫したり、的の形や大きさを工夫したり、大きな声で挨拶や説明をしたりすることが有効であることに気付く。
終末	・本時での自己の変容や努力したことを振り返る。 ・次時の見通しをもつ。	本時の学習活動について振り返る。 【主体的な学び】 ・自分の役割によって単元を通して大切にしたい願いや目標が実現した評価を聞き、これからの活動への意欲をもつ。 【対話的な学び】 ・写真や動画、仲間からの感想などから、自己の変容や努力を実感する。 ・教師の評価により、自己の変容や努力を日常生活で発揮しようとする気持ちを高める。

あ と が き

飛驒教育事務所が本資料「主体的・対話的で深い学び」を作成するに至ったのは、管内の先生方から、学習指導要領が改訂されたが、これまでの「主体的な学び」とどう違うの？これまで取り組んできた「対話的な学び」とどう違うの？という声を多く聞き、早急に、その疑問や質問にこたえるべきものと思ったからです。

本資料の前文（6つの留意点）にもありますように、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」については、新たな視点からの授業改善を求めているわけではなく、これまでも取り組んできたことであり、より質的な高まりで強調されたということです。

しかし、これまでも取り組んできたことだと、同じことをしていても、質的な高まりは期待できません。今一度、質的な高まりという視点から願う児童生徒の姿を見直したり、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」における手だてを見直したりする中で、課題を見つけ、解決する取り組みは必要不可欠であると考えます。

そこで、今回作成した資料は、授業の質的な高まりを目指すために、「どの視点から授業を見直すのか」「どの視点から手だてを工夫したらよいか」先生方が分かりやすい、活用しやすいように作成したつもりです。

ぜひ、児童生徒の「学校が好き」「授業が楽しい」という気持ちを大切にしたい授業改善の資料として、ご活用ください。

「主体的・対話的で深い学び」の手引き

平成30年9月13日 発行

飛驒教育事務所

中村 好一	見山 政克	清水 明彦	牛丸 勝	脇田 誠	益田 貴史
元田 美穂	清水 哲弘	水野 浩	今井 則雄	有志 智和	河瀬 康博
小田 雅人	下平 貴昭	加藤 高祥（東濃教事）	安江 政利（東濃教事）		
重山 源隆	北條 裕也	大坪 稔	中西 史子	青木 穰	中垣 尚美
坂井 友美					